

自己評価結果票

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居することで、それまでの友人や、近所づきあいが途切れてしまわないよう、継続した面会をお願いしている。また、周りの施設との地域交流を図っている。		
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフルームなど目に付きやすい場所に理念を掲示し、意識して理念の共有を図り、行動するよう心がけている。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族や地域の方にホームに来て頂いた時や散歩時等に利用者の様子や職員の姿を見て頂くことで大切にしていることを理解してもらえるよう取り組んでいる。		
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホーム周辺は民家が少ないが、福祉センター(デイサービスセンター)・小規模作業所・診療所・保育所があり、ゲーム、行事などに参加し、気軽に行き来している。また診療所の待ち時間などに遊びに来られておしゃべりを楽しみ日常的な付き合いができるよう努めている。		
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事に参加したり、地域のボランティアの方にホームで歌や踊り、食事会などの催しを提供して頂いている。		

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	個人としては地域の人の介護相談にはのっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を受けるにあたって職員に自己評価の項目を提示し、意見をまとめて作成している。全職員が周知し、質のよいサービスの確保に向けての取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はまだ設置していない。		早急に運営推進会議の設置を検討したい。話し合った内容や意見について利用者のケアサービスに努めていきたい。
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町担当者と行き来する機会が設けることができていない。町と共にはサービスの質の向上に取り組めていない。		町担当者と気軽に連携をとり、地域で開かれている会議などにも参加する機会を作り、町とともにサービスの質の向上に取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する理解は全職員までに浸透していない。		今後学ぶ機会を設けたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待について日頃から話し合いをし防止に努めている。ニュースなどで取り上げられた虐待の報道などについてはその都度、意見交換し話しあっている。また利用者の様子や変化に注意を払い、観察し、防止に努めている。		

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得	契約時に重要事項説明書に添って音読し、説明を行っている。疑問点等は十分に説明をし納得・理解していただけるようにしている。		
	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている			
13	○運営に関する利用者意見の反映	食事やお茶の時間・余暇活動等の時、一緒に過ごすことで意見や不満を聞く機会を作っている。		意見箱を設置するよう見当する。
	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	管理者、職員が利用者の家族に面会時や手紙、電話などで暮らしぶりや健康状態などの近況報告をしている。金銭管理については必要に応じて、家族に伝えて許可を頂くようにし、会計報告に領収書を添付し定期的にお渡ししている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や要望を聞いている。職員間で話し合ったり迅速な対応を心がけている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時やミーティングなどで職員と話す機会を設け、意見や提案を聞くようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状況変化、行事、要望に応じて、また職員の希望などで勤務時間は調整している。		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2年前、社協合併により管理者の交替をしているが利用者は落ち着いて生活していて、家族も安心している。新職員については馴染みの関係を築くことができるよう職員が間に入り関係作りに配慮し対応している。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内容に応じ研修に参加している。その他の研修は本人の意思の任せている。ミーティング時施設内研修も進めているが充分とは言えない。		職員1人1人に必要な研修を見極め、必要な知識、技術の習得ができるようにしていきたい。また定期的にミーティングを開催していきたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は少ない機会ではあるが、他のグループホームとお互いに交流する機会を持っている。参考になる事柄を取り入れるなど、情報交換を行っている。		施設見学などを通じ、職員同士の交流を深めていきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日頃からコミュニケーションをとり、職員の不満、ストレスの原因となる事柄を常に聞けるような関係、環境作りに心がけている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日頃から勤務状況を把握し、努力に対しては評価し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		資格取得を進めていく。

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	自宅訪問、入居申込時に利用者の不安に思っている事や求められている事などに時間をかけてゆっくり傾聴し、話がしやすい雰囲気作りに心がけている。また安心して利用していただけるように、思いを受け止めるように努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の不安や求められている事等ゆっくり傾聴し安心して利用して頂けるように思いを受け止め対応している。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅訪問、申し込み時の様子や情報から家族、利用者にとって一番必要とされる支援は何かを見極め、他のサービス利用も視野に入れながら初期対応に努めている。また担当ケアマネとも相談している。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービス利用で、職員との馴染みの関係作りや環境に馴染めるようにしている。	
還			
27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	家族的な雰囲気の中で、何でも話せるような関係づくりに心がけている。また季節の行事やならわし等を教えていただき一緒に楽しんでいる。	

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
28	○利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	家族には常に状況報告し、(電話、来訪時、手紙)ご家族と共に利用者を支えるように関わりを密にしている。また家族ができることしたいことは積極的にしていただけるように対応している。		
29	○利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が気軽に訪問でき、訪問時居心地よく過ごせるような雰囲気を作り、お茶を飲みながら居室でゆっくりお話をしたり、外出してゆっくりと過ごして頂くなど、また日頃利用者の話す会話、家族への思いなどをさりげなく伝え、より良い関係が保てるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の馴染みの方や友達、教え子が自由に入出りできる雰囲気作りやドライブなどで馴染みの場所を訪れて懐かしんで頂くような支援に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ドライブ、散歩、外食、レクリエーションなどで他者との交流を図り、楽しく過ごせるよう配慮している。孤立しがちな利用者には交流しやすいように職員が仲介役になっている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も他の施設を訪問して、その後の様子など伺うように努めている。		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ゆっくりと話ができるように時間をとり、発する言葉等を推測しながら意向の把握に努めている。、また家族から情報を得、思いを把握できるように努めている。	入居者の思いに添えるように、また思いをだしやすいように時間や環境をつくるように心がけていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居希望時、面接時に利用者、家族から今後のケアに活かせるためにも情報を収集している。また入居に至るまでの様子、生活歴、趣味、特技、本人にとってのこだわりなどを把握し、生活の中で、「その人らしさ」を発揮できるように努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	心身の状況、本人の持っている能力などを把握し、役割や仲間との交流など、それぞれの場面で出来ること、持てる力を発揮していただいている。	
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族から生活歴、希望、要望などを伺い、その意見を尊重している。職員間でよく話し合って、利用者にとって適切な計画となるように努めている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の個別記録や必要に応じて話し合いをし、見直しにつなげている。また利用者の意向や家族の意向を取り入れ、利用者の状態変化に応じて変更し、見直しをしている。	

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケアの一日記録、健康記録、連絡ノートなど用途ごとに使い分け結果等を記録に残し、情報を共有し、介護計画作成に役立てている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望があれば柔軟な対応出来るようにしている。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアによる活動をお願いしている。周辺地域の諸施設から無断で外出されている方の様子や情報を連絡してくださっている。		今後ボランティアによる活動を増やしたい。
41 ○他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	福祉センターのデイサービスを利用し交流を図っている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、地域包括支援センターとの協働はない。		どのように協働すべきかわからない。

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の協力が得られており、基本的には家族の同行により、かかりつけ医の受診が行われている。状況により職員が受診に同行することもある。また必要に応じ往診に来ていただいたり電話で連絡を密にとり、適切な医療が行われるよう支援している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者の認知症の症状の進行などが見られる場合、受診時に医師に相談している。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	社協の看護師に状態の変化など相談している。また必要に応じて利用者の様子を見に来て頂いて健康管理のケアについて支援してもらっている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院前に利用者情報提供書を提出し、病院関係者との情報交換に努めている。入院中も面会や様子を伺うようにし、その都度相談に応じて、早期退院が出来るように努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は家族、主治医と話し合いをしながら支援している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	状態が変化した場合見極め、かかりつけ医との連携を図り、今後の変化に備えて検討している。		

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	関係者間で十分な話し合いや情報交換を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の人格を尊重し、プライバシーを損ねないような言葉声かや対応を行っている。職員に対する個人情報漏洩防止については周知し、誓約書を交わしている。また、個人情報使用に関わる同意書についても入居時、利用者等の同意を得ている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の傍らに寄り添い、表情や話す調子を観察しながら職員とのコミュニケーションを大切に、受容と傾聴を基本に納得しながら暮らせるように支援を行っている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者はそれぞれのペースで自由に過ごしており、希望に添って支援出来るように職員が柔軟に対応できるようにしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出時などはいつもと少し違うおしゃれをしていただいている。美容については本人の望む店にいけるように努めている。		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と同じテーブルについて同じものを食べながら楽しく食事をとっている。食事の準備や後片付けも利用者それぞれのペースで行っている。時々利用者に「何を食べたいか」を尋ね献立に取り入れたり、また季節感のあるメニューを取り入れている。		
55 ○利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	家族の方が持ってこられた養命酒等を寝る前に飲んで頂いている。飲み物やおやつは一人一人の状況に合わせて支援している。		職員と一緒におやつ作りの機会を増やしていけるように取り組んでいきたい。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄のパターンを把握し、トイレでの排泄習慣を支援している。また家族と相談しながら個々の状態に合わせたパットやパンツの使用し、羞恥心、プライバシーに配慮している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、職員が声かけし本人の希望により入浴していただいている。ゆっくりと職員と1:1の会話を楽しみながら入浴できるようにし、さりげなく見守りながら支援している。拒否があった時などは時間をずらして再度声かけするなど工夫している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者それぞれの睡眠パターンを把握し、日中は散歩やドライブ、レクリエーション等で1日の生活リズムをつくり、安眠出来る事を心がけています。寝付かれない利用者に対しては1:1でゆっくり会話するなどして安心して眠れるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来ること、趣味、得意なことを把握し、暮らしを楽しめるよう支援している。また散歩やドライブなどで気分転換を図っている。		


項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで管理している。希望があれば一緒に買い物に出かけ、職員が手伝いをしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調を確認のうえで、気分転換や季節感を味わっていただけるよう、散歩やドライブ、買い物には出かけるようにしている。また誕生日には外に食べに出かけたりする。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ドライブがてら足をのばすようにしている。また面会時や年末年始に家族と外出をしていただくよう支援している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望であればその都度、職員がお手伝いをしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の決まりはなく、いつでも気軽に訪問にきていただけるようにしている。またお茶やお菓子をだしてゆっくり面会が出来るよう配慮している。		
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止をすべての職員が理解しており、利用者の状態を把握することで身体拘束をしないケアに努めている。		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者に閉塞感を与えないように基本的に玄関、居室は施錠はしていないが、利用者の安全確保のためやむを得ず施錠を行うことがある。		
67 ○利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間で連携を図り常に利用者の状況が把握できるように安全に配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物は倉庫やロッカー、事務所など決められた場所に保管している。夜間は鍵をかけている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者の居室内、リビング、行動範囲内において危険となるような状況を把握し、個々の状態に応じて事故防止に努めている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	AEDを設置し使用法については講習を受けている。救急救命法の講習をスタッフ全員が受けている。		緊急時には冷静な判断、対応が出来るように研修を重ねていきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者一人ひとりの状態や様子を観察し、また主治医と連絡をとりながら、家族に現状を説明し、起こり得るリスクについて了解を得ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々、顔色、身体状況を観察しており、変化があったときはデイサービスの看護師に相談し、必要であれば主治医に、受診をして早期治療が出来るように支援している。また、家族にも結果報告し、職員にも連絡ノートで申し送りをしている。		
74	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の手帳、処方箋を職員がいつでも確認できるように薬と共に保管している。また薬の変更があれば申し送り時に説明、連絡ノートに記載し、職員が理解できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	規則正しい食生活(水分、乳製品、食物繊維を多く含む食品の摂取)、適度な運動を取り入れ、便秘予防に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時、食後、就寝時に利用者の状態を見て、必要な支援を行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は毎食後、健康記録にチェックし、一人ひとりの食事量を把握している。食事量が少ない利用者については、食べやすい物や好まれる物を用意したり、また食べやすい大きさにして提供するなど工夫している。水分の量は毎食の献立に汁物をつけるなど工夫して一日の摂取量を確保している。		

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している (インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、予防接種、うがい、手洗いを励行している。また手すりやトイレなどは次亜塩素酸ナトリウムなどで消毒している。手ふきはペーパータオルを使用している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、台所回り、冷蔵庫の中などは除菌、漂白、清掃などを行い、常に清潔、衛生に留意している。食材は賞味期限のチェックを行い、常に新鮮な食材を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先には椅子を用意し、お天気のよい日は日光浴をしながら、外の景色を見ながら会話が楽しめるようになっている。玄関は季節の花を飾ったり、椅子も置くなど工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間 (玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア、リビングには季節の花や季節の行事 (ひな人形、五月人形、クリスマスツリー等) の飾り物を置いて季節感をだして、ゆったりとした落ち着いた場作りをこころがけている。常に精神安定のため、馴染みの音楽をかけ、居心地よく生活出来るよう工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブルのほか、一角にこたつやソファを配置し、気の合った利用者同士で思い思いの場所で過ごして頂いている。		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族の協力を得て馴染みの家具や好みの物を持ち込んで頂いている。</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>毎朝、起床時などに窓を開け、換気に気をつけている。各居室にオゾン脱臭機を設置している。また気温の変化に合わせてこまめに温度調節している。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>玄関、トイレ、浴室に手すりを設置し、また視力障害のかたが安全に移動出来るよう障害となる物を置かないようにしている。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>自分でできることは声かけ、見守りしながらして頂くようにしている。出来ないことでも声かけしながら、少しでもやって頂けるよう努めている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>玄関前やテラスなどでお茶を飲んだり、歌を歌ったりして楽しんでいる。玄関の前に季節の花を植え、草引きや水やりなどを行っている。また季節の野菜等を植えて成長を楽しんでおられる。</p>		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		事業所が示す、取り組みの成果 (該当する箇所の番号の前に○印をつける)
項	目	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		事業所が示す、取り組みの成果 (該当する箇所の番号の前に○印をつける)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日々、利用者お一人おひとりが、その方らしく穏やかに毎日を送れるように支援している。散歩やドライブ、レクリエーションも利用者にとっての楽しみ事の一つとしてととして定着がされている。